令和6年5月17日

小麦情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課
No.1
Tel. 018－860－3410
Fax. 018－860－3834

出穂期は平年より早い。赤かび病の適期防除を！

1 気象経過（R6. 4月～5月）

アメダス大潟

〈概況〉

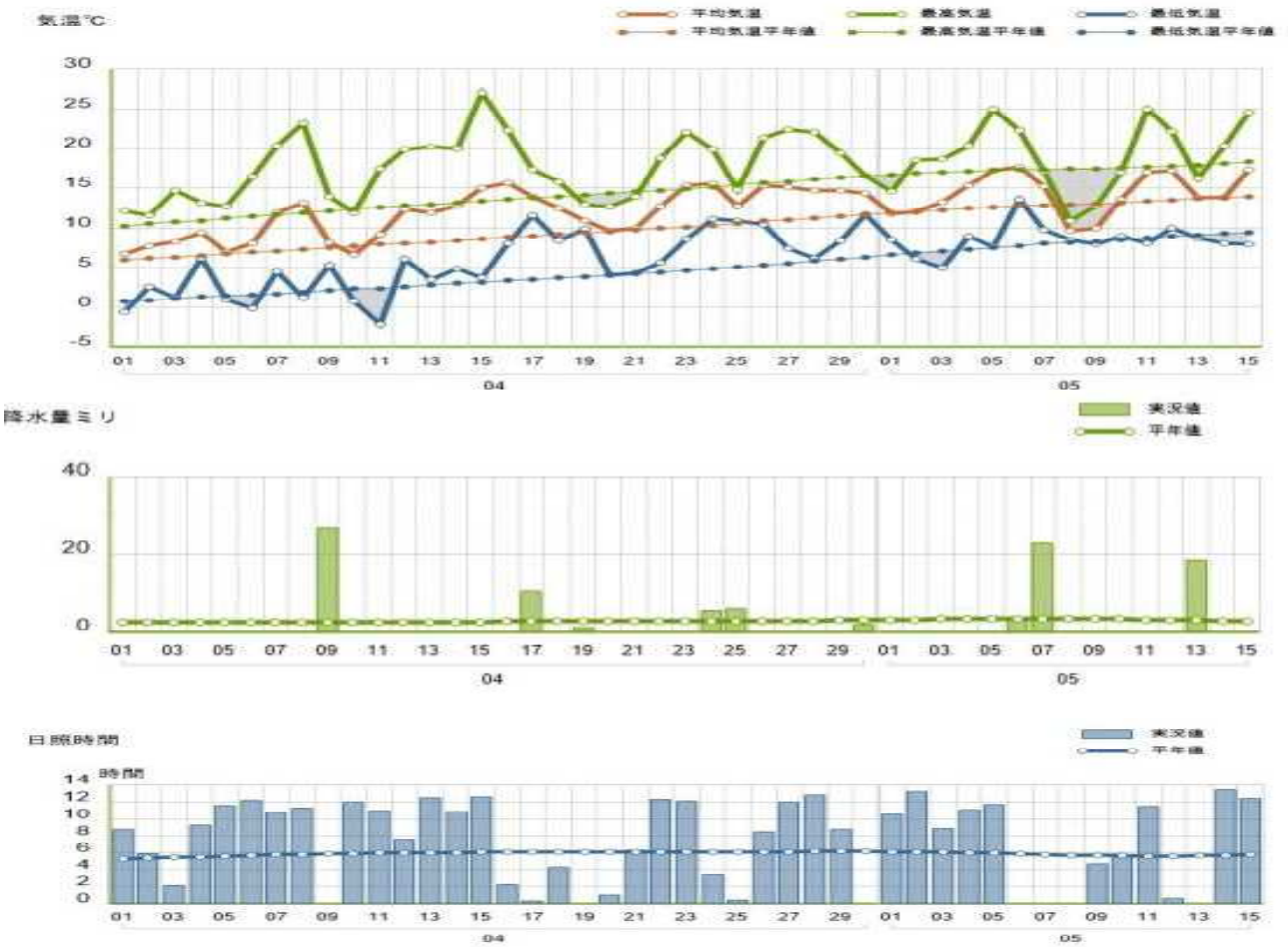

図1　日毎の気象経過（2024年4月1日～2024年5月15日）

4月は一時的な低温もありましたが、期間を通して気温は高く推移しました。5月に入ってからも降雨の影響による一時的な低温があったものの、平年よりも気温が高く推移しました。

仙台管区気象台から5月16日に発表された東北地方の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並または多い見込みです。特に期間の前半（5/18～5/31）は気温がかなり高くなる見込みです。

２ R6年産小麦の生育状況（R6年5月1日現在）

・５月１日の調査では、銀河のちからの草丈は63.1cm（平年比118.2%、前年比89.7%）、茎数は573本/㎡（平年比98.6%、前年比92.6%）、葉数は13.0葉（平年比+0.2葉、前年比+0.4葉）となっています。

・出穂期は過去５年平均値より５日早い５月５日頃となりました（農協聞き取り）。向こう１か月の気温は高くなり、天候は数日の周期で変わる予報ですので、今後の気象経過に注意し、適期防除を徹底してください。

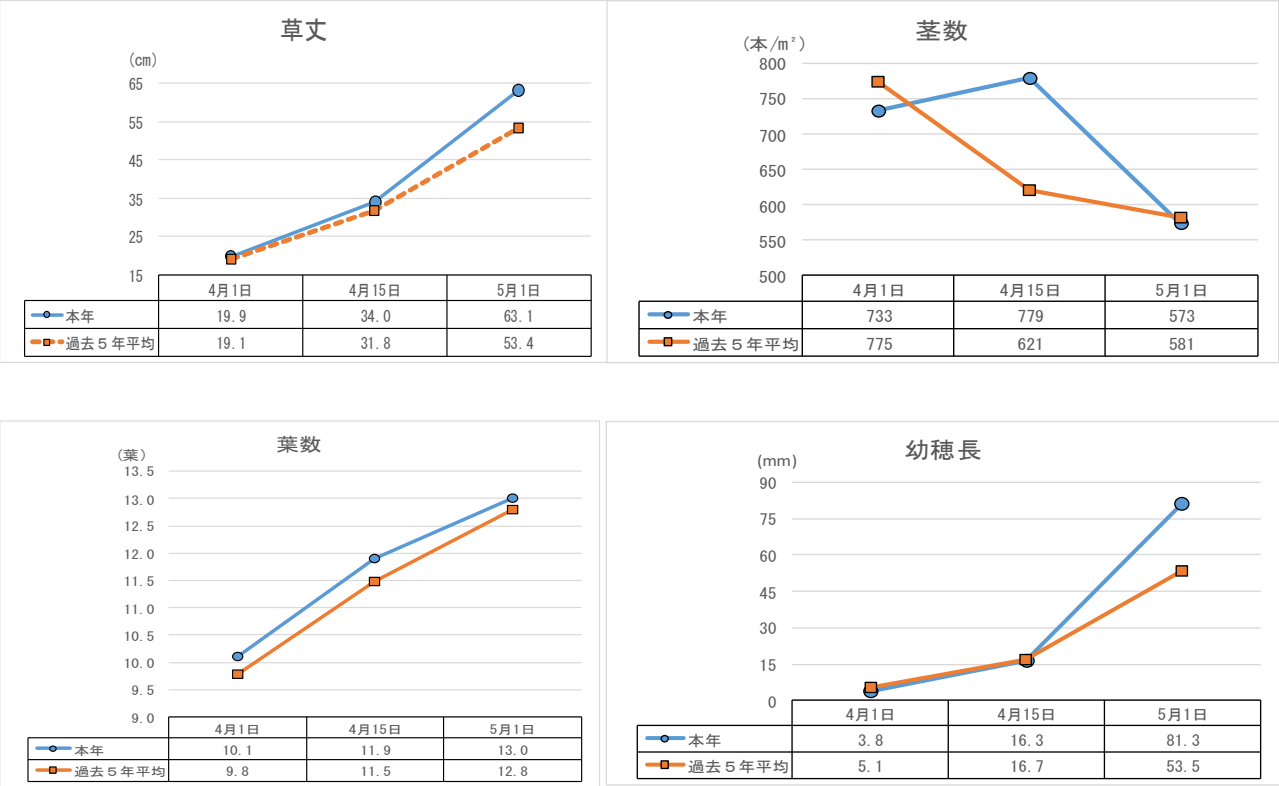

図2　５月１日の生育調査結果（「銀河のちから」４地点平均）（調査：大潟村農協）

３ 赤かび病防除について

・本年は小麦の生育が平年より進んでいるため、防除適期が早まることが予想されます。開花始期の防除が遅れないように注意しましょう（一般的に出穂期から７～10日後に開花期を迎えます）。

・赤かび病は開花が始まってから10日程度の間が最も感染しやすく、この間に降雨が続き気温が高いと多発します。薬剤による防除は**開花始期に１回目の散布（シルバキュアフロアブルまたはストロビーフロアブル）を行い、１回目の散布から７～10日後に２回目の散布（トップジンM水和剤）を行います。** 開花始期に１回目の薬剤散布ができないと予想される場合は早めに散布してください。

・ほ場間での生育差が大きい場合はよく観察して適期防除に努めてください。
・耐性菌を出さないため、RACコードが１、３、11の薬剤は連用を避けてください。
※赤かび粒の混入があると規格外となり、同病で発生する毒素（ＤＯＮ（デオキシニバレノール））が1.0ppmを超えると食用小麦として販売できなくなります。家畜飼料とする場合は、収穫物を精選し、屑麦を家畜に与えないようにしてください。

◆赤かび病防除使用薬剤

RAC ｺｰﾄﾞ	薬剤名	散布濃度	散布量(/10a)	備　考
１	トップジンＭ粉剤ＤＬ	４kg/10a	―	
M2	イオウフロアブル	400～800倍	100～150Ｌ	
３	シルバキュアフロアブル	2,000倍	100～150Ｌ	無人ヘリ散布（16倍液0.8L/10a）
11	ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	100～150Ｌ	
M2/UN	石灰硫黄合剤※1	50～60倍	100～150Ｌ	
１	トップジンＭ水和剤	1,000～1,500倍	100～150Ｌ	
１	トップジンＭゾル	８倍	0.8Ｌ	無人ヘリ散布